２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

ＳＳＫＷ
巣立ちだより

No. 44

— 目　次 —

・平成２７年新春を迎えて　… 1-2
・新こひつじ舎完成　事業開始とお披露目会　… 3-4
・ピアサポート事業からの報告　… 5
・厚生労働省の方々が施設見学にいらっしゃいました　… 6
・講演会予告！「思春期・青年期のメンタルヘルス」　… 7
・巣立ちホーム三鷹第二　新ユニット増設　… 7
・職員研修　調布ツアー　… 8

～　平成２７年新春を迎えて　～

理事長　田尾有樹子

新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃より巣立ち会の活動をご支援いただき、ありがとうございます。何とか昨年も無事に１年過ごせたことに、心から感謝をしたい気持ちです。

昨年の振り返りから申し上げますと、最も大きな出来事はこひつじ舎の新築でした。

10 月に竣工し、11 月に長年住み慣れた柴崎から西調布に引っ越しました。

引っ越す前は利用者や職員に漠然とした不安があったようですが、引越しを済ませて新しい建物になってからは、利用者・職員ほぼ全員がとても居心地が良く、広くなったことへの喜びを表現しておりました。

４ヶ所ある巣立ち会の通所の事業所の中で、こひつじ舎が最も狭く、腕を横に上げれば隣の人とぶつかるというような場所でしたから、何とかしたいと常々思っておりました。今回こうして、皆様のご協力の下に新築の建物が完成できたことは、この上もない喜びであります。

しかし、最初にあった私どもの信念「福祉サービスはハードではなく、ソフトすなわち利用者の方の人生に寄り添いその願いがかなうような直接・間接的な人のサービスが最も大切だ」ということに変わりはありません。

こひつじ舎は場所が駅の近くということもあって、様々な目的の方が利用されます。今後も建物のきれいさで利用者を呼ぶということでなく、その方達の個々の夢や希望に沿った支援をしていく努力をし続ける事を、皆様にあらためてお約束をしておきたいと思います。

また、この紙面上で大変恐縮ですが、12 月 20 日のお披露目会にお越し下さった方々に、御礼を申し上げたいと思います。

さて、今年の当会ですが、会独自に何か目に見える事業の予定はありません。

ここ何年か意識しているのは、当会だけが頑張ってもとても小さな成果にしかならず、やはり地域が全体的に良くなっていかなければ、そこで生活していく利用者が生きやすく住みやすくはならないということです。

その意味では、今年はもっと地域へ出て行き、巣立ち会として貢献できることがないか、あるいはもっと地域連携を強めていく中で利用者に還元できることはないかなど、大きな視野に立ってできることを模索していきたいと考えています。

三鷹では、平成 28 年度には基幹相談支援センターを立ち上げようと考えています。当会でもこの三鷹市の計画に協力すると共に、相談支援事業の部分をさらに強化し、この事業の重要性を多くの人に伝え、実りある活動につなげ、地域の理解を深めたいと考えております。

先にも述べましたが、私達の仕事はとにかく利用者が少しでも自分自身の人生に満足し、納得し、日々を楽しいと感じながら生きていただくことが目標です。

今年もその目標に沿うように、職員とまた利用者の方たちとも一丸となって過ごしていきたいと思います。

皆様の暖かいご支援と見守りを、今後とも宜しくお願いいたします。

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

新こひつじ舎完成
事業開始とお披露目会

柴崎での事業開始から 14 年間、厨房、お弁当業務というこひつじ舎の一部を残し、長年住み慣れた地を離れ、お世話になった柴崎駅北口駅前商店会の方々ともお別れして、こひつじ舎は西調布に移転いたしました。

新事業所の完成が 9 月末、1 ヶ月の準備期間をおいて 10 月末に引越しを行い、11 月より利用定員を 40 名から 50 名に増やしての新たなスタートとなりました。

引越しから西調布での事業開始までの間、また移転した直後にも種々細かな事業運営上の不安はありました。柴崎に厨房を残しての移転でしたので、厨房との連携、お弁当配達の時間配分やルートの問題、また変化することに大きな不安を口にする利用者の方々への引越し前後の説明や対応等、やってみなければわからないことだらけの事業開始でした。

スタッフ間で何度もシミュレーションを重ね、話し合って準備をして迎えた 11 月のスタートでしたが、利用者・スタッフ共々、大きな混乱もなく再開でき、ほどほどスムーズに日常の作業に入れたことに、何よりほっと胸をなでおろすことができました。

また、12月20日には新こひつじ舎のお披露目会を開催させていただきました。お忙しい中でご臨席賜りました100名余りの多くの方々と、この会を祝う喜びを共にできました。

会は来賓ご祝辞に始まり、続いてソプラノ歌手・バンドゥーラ演奏者ステパニュック・オクサーナさんによる素晴らしい歌と演奏が会を盛り立てました。そして後半の懇親会は場所を二階に移し、歓談方々こひつじ舎の歩みをスライドで紹介させていただき、お披露目会を無事に終えることができました。皆さまには心より感謝いたしております。

そして 1 ヶ月、2 ヶ月と新しいこひつじ舎での日々を過ごすにつれ、今ではこの広くて明るい空間のなかで気持ちよく作業も仕事もできることへの、ありがたさと喜びを実感しています。

見学に来て下さる方も確実に多くなり、皆さん広々とした新しい建物で気持ちが良いとおっしゃって下さいます。それと共に利用者の方々も少しずつ増えているこの頃ですが、建物に負けないような中身の充実した、ある面ではきめの細かい支援をより心がけていきたいと思っております。

西調布という新しい地で、地域に少しでも早く溶け込む努力をし、地域の方々と良い連携をとらせていただきながら、一方で柴崎地域との関わりも厨房と協力して大切にしていきたいと考えています。そして利用者の方々の生き方に添いつつ、利用者の方々に、こひつじ舎に来て何かが変わった、あるいは日々の生活が楽しいと感じていただけるような支援の事業を行っていきたいと思っています。

こひつじ舎全員の力で日々頑張って積み重ねていきたいと思っております。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（こひつじ舎　斉藤）

※次頁に利用者・スタッフの声、建物概要をご紹介しています。

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

＊利用者の方々の声

・建物がきれいで気持ちがよくて嬉しい。建物がおしゃれ。
・広くて作業がしやすい。収納が多くて作業場がすっきりする。
・マンション清掃に行く道のりは遠くなったが、建物は使いやすい。
・新しい建物、新しい場所に来るのに不安があった。建物、環境に慣れるのに時間がかかった。
・暖房がよく効いてすぐに暖まる。
・素晴らしい設備のキッチンがあるので何かに使わなければもったいない。
・ソファーが置いてある休憩スペースが以前より広いし、場所が落ち着く。
・移転してから、通所に気持ちが乗る。

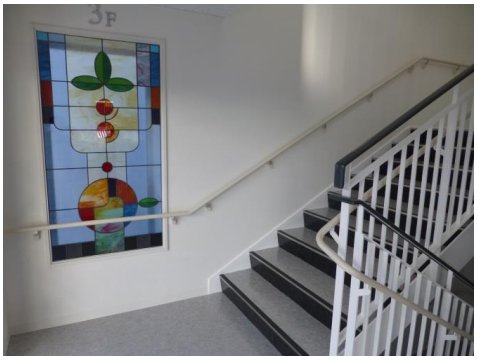
＊スタッフの声

・皆新しい建物、喜んでいます。駐車場、目の前も大変ありがたい！です。

（全景・正面玄関）

（一階：作業場・会議室）

（一階：作業場から駐車場）



（一階～二階 踊り場）

（二階：作業場・調理場）

（三階：事務室）

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

ピアサポート事業からの報告

（ふれあいトークの司会）

これまで三鷹市から委託されているピアサポート事業では、こころの病の経験のある方たちが、自らの経験を共有し、語り合い、仲間と共に学ぶ場所や機会をつくってきました。

三鷹市内の他の福祉・医療サービスと併用しながら、本事業の講座や研修会に出席され、仲間とともに学び、元気になられ、新しい目標を持たれる方もいました。

平成 22 年・23 年と連続して、英国のメンタルヘルスの取り組みについてジェフ・シェパード氏とジュリー・レパー氏を招へいし、三鷹で講演会を行いました。そこでは英国の様々な活動を知ることができましたが、その中でも「リカバリー・カレッジ」という取り組みが当事者のリカバリーに大きな効果があることが報告されました。

そこで、平成 25 年度から本事業でも英国をモデルとして三鷹市で「リカバリー・カレッジ」（こころの元気回復市民講座）を行っていくことになりました。

昨年は延べ 1,234 名の受講者が各講座に参加されました。当事者だけでなく、支援者・家族・一般市民等、様々な出会いがあり、みなさんで学習する場として盛り上がりました。今後も、春期・秋期・冬期の 3 学期制で開講していきますので、ふるってご参加下さい。

（「リカバリー・カレッジ」についての詳細は、巣立ち会ホームページでも紹介していますので、ご覧になっていただけると幸いです。）

また、年末に恒例になりました「第 9 回ふれあいトーク」を、11 月 28 日に開催しました。

このイベントも、リカバリー・カレッジ受講者の中からボランティアを募り、イベント当日までの企画会議にはじまり、当日の発表者、会場運営等を行いました。2 ヶ月程前から企画会議を毎週行い、熱気あふれる話し合いをすすめてきました。

（ふれあいトークにて）

イベント当日は、実行委員を含め 104 名の皆様にお越しいただきました。こころの病を経験した中で、5 名の当事者が自分が経験してきたことや感じてきたことを率直に語っていただきました。各発表者とも参加者からの質問等にも積極的に応えるなど、双方向的なイベントにできたのではないかと思います。

今後もピアサポート事業への応援をよろしくお願い致します。

（事業担当　小林）

（リカバリーカレッジ　受講生のみなさん）

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

厚生労働省の方々が施設見学にいらっしゃいました

平成 26 年 12 月 10 日に厚生労働省より、障害保健福祉部長の藤井様をはじめ 10 名の方々が、当会の施設見学にいらっしゃいました。

午後 1 時半に到着し、まず新しいサービスとしてうつ病復職支援「ルポゼ」と、若者支援の「ユースメンタルサポート Color」を見て頂きました。ルポゼではテーブルを囲んでの話し合いとなり、利用者からの「社会の偏見を減らす取り組みを」「精神科医が福祉サービスのことをよく知らないため、情報が伝わらない」「就職・復職後も継続的にサポートしてくれるサービスが欲しい」などといった声に耳を傾けて頂きました。一方 Color では実際のプログラムを見て頂き、医療デイケアとは異なる明るい雰囲気を感じ取って頂きました。

その後は、当会の根幹の事業ともいえる長期入院者の退院促進支援の現場として、まずグループホームの居室 3 部屋を訪問し、利用者の実際の生活ぶりを感じて頂きながら、利用者の体験談を聞いて頂きました。皆様方も居住施設についての関心は高かったようで、熱心に話を聞いて頂きました。

そして、続く巣立ち風では多くの利用者に集まってもらい、“ここ一番”で行われる当会名物の「座談会」を開催しました。質問に答える利用者からは続々と「名言」が出て、笑いを交えながら、当会の支援の根幹について何よりも雄弁に伝わったようでした。

最後に、理事長の田尾をはじめとした当会職員との懇談の時間を設けて頂きました。

当会では、長期入院者から今では若者や復職を目指すうつ病の方などにも支援の対象を広げており、今後もさらに様々なメンタルヘルスの問題への取り組みを広げていこうと考えています。

そういった中で、例えば相談支援としての「地域定着支援」をもっと活用することで従来のサービスではカバーしきれていないニーズに対応できるのではないかと言う提案や、今後の退院支援におけるアドボケイトの努力規定について、そして精神保健福祉法における親族の義務規定の撤廃について等をあらためて訴えました。

皆様方もそうした話はあちこちで聞いていらっしゃるとは思うのですが、今回、こうした現場がバックボーンとなっての提案であることを、非常にリアルにとらえて頂けたように感じました。

厚労省の皆様方には、予定時間をオーバーしてお付き合い頂きました。心から感謝申し上げると共に、今後の制度設計の際にも、どこかでこんな現場のことを思い起こして頂ければ、大変幸いに思います。

（シンフォニー　長門）

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

講演会 予告！

「思春期・青年期のメンタルヘルス」

昨年度から実施している、ユースメンタルサポートColorが東京都立世田谷泉高等学校の生徒等に行っている支援事業ですが、8月に平成26年度独立行政法人福祉医療機構助成金の2次募集に採択されました。

この支援事業は、先号の巣立ちだよりでも紹介した通り、定期的に世田谷泉高校に支援員を派遣して生徒等への相談支援を実施するだけでなく、生徒へのメンタルヘルスに関するアンケート調査や教員の方々への研修会、また生徒を対象にしたメンタルヘルスの授業等を実施するものです。興味を持たれた方は、昨年度の報告書が引き続き当会のホームページ（http://sudachikai.eco.to/）にアップされていますので、ぜひご覧になって下さい。

その事業の中で、昨年に引き続き今年度も事業連携先の東京都立松沢病院より、精神科部長の針間博彦先生をお呼びして、「思春期・青年期のメンタルヘルス」というテーマの講演会を開催することになりました。

・日時；平成27年3月15日（日）14時～16時
・場所；世田谷区立烏山区民会館　集会室
（講演会の詳細や申込方法等は、同封のチラシ等をご確認下さい）

昨年度に実施した生徒へのアンケート調査でも、この年代からメンタルヘルスの不調に陥っている若者たちが一定数いるのではないかという結果が示唆されています。正しい知識を持って周囲の若者に接していくためにも、ぜひご参加下さい。　（シンフォニー　長門）

巣立ちホーム三鷹第二 新ユニット増設

この度、11月1日から巣立ちホーム三鷹第2に新しいアパートが建ち、ユニットが増えることになりました。

アパートの名前は「Home・スウィートホーム」といい、温かい家庭に帰ってくるというイメージで大家さんが名付けてくれました。2階建の新築アパートで居室は7部屋です。

スウィートホームが加わり三鷹第 2 の仲間も増えることになるため、より賑やかで温かいグループホームに、そして名前の由来通りメンバーが安心して生活できるよう、世話人一同努めていきたいと思っています。　（巣立ちホーム三鷹第2　川口）

２００２年４月２３日　第三種郵便物認可（毎月３回５の日発行）
２０１５年１月３１日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第３５１５号

職員研修
調布ツアー

10 月 10 日、今年度新しく入職したスタッフを中心に調布市の精神科病院・福祉施設の見学ツアーを行いました。

当日は当会職員 15 名が参加し、一日かけて、山田病院、青木病院、くすのき会の各作業所、クッキングハウス、希望ヶ丘・粋交舎、こころの健康支援センターの見学に伺わせて頂きました。

この機会を通じ、病院、作業所、就労支援室、グループホーム等連携させて頂いている施設をより具体的に知ることができたと感じます。例えば同じ「作業所」であっても、その雰囲気・特徴は巣立ち会とは異なること、どの施設も地域に大切な役割を果たしていることなどを実感しました。

今後も、特徴をふまえた豊かな支援・連携ができるよう努力したいと、思いを新たにしました。

以下は、参加者の感想です。

「調布市の福祉は充実している。」と永六輔さんがラジオで仰っていました。今回の社会資源ツアーはその言葉を実感する契機となりました。病院、作業所、グループホーム、お食事処、支援センター等と充実のツアーでしたが、なかでも、「調布市こころの健康支援センター」の就労支援や自習プログラムの豊富さには驚きました。例えば、作業所にも繁閑の期間さまざまですが、閑散期に支援センターのプログラムに倣って利用者が意義のある時間を過ごせると云った工夫を凝らしていることに、今後の検討課題として参考となりました。ともかくも、永六輔さんの言葉を胸に、額に汗し、智慧を絞れば希望はある、と勇気をもらえた社会資源ツアーでした。

（こひつじ舎　田中）

お忙しい中、見学を受け入れて頂いた病院、福祉施設の皆様ありがとうございました。
職員一同たいへん勉強になりました。

今後の支援活動に大いに活かしていきたいと考えています。

（こひつじ舎　岡村）

編集後記

新年度を迎え、心新たにしています。
さてと、今年の課題は、目標をどこに。
サミエル・ウルマン、青春の一節に、
希望ある限り若く　失望と共に老い朽ちる
とある。「希望」を「目標」と読み替え、
さあ、今年も頑張るぞ！

（小島）

発行所　〒157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21
特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会
定価　50 円
編集；社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014　東京都三鷹市野崎 2-6-42
TEL 0422-34-2761
http://sudachikai.eco.to/
sudachi-kaze@sudachikai.eco.to